

日本文学科 現2・3年生

令和3年度開講「演習」仮シラバス

【日本文学演習】

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

開講学年	応募科目名	担当者	曜日	時限	ページ
3・4	日本文学演習Ⅱ	谷口 雅博	火	6	3
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	上野 誠	火	4	3
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	土佐秀里	木	6	4
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	山田 利博	金	2	5
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	太田 敦子	木	5	5
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	塚原 明弘	土	6	6
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	竹内 正彦	金	6	6
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	荒木 優也	木	6	7
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	荒木 優也	火	3	7
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ★	野中 哲照	火	6	8
	日本文学演習Ⅲ★				
3・4	日本文学演習Ⅱ	中村 正明	火	4	9
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	中村 正明	木	6	9
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	岡崎 直也	月	4	10
	日本文学演習Ⅲ				

開講学年	応募科目名	担当者	曜日	時限	ページ
3・4	日本文学演習Ⅱ	井上 明芳	金	5	10
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ★	石川 則夫	月	3	11
	日本文学演習Ⅲ★				
3・4	日本文学演習Ⅱ★	井上 明芳	金	6	12
	日本文学演習Ⅲ★				
3・4	日本文学演習Ⅱ	鬼頭 七美	月	2	12
	日本文学演習Ⅲ				
3・4	日本文学演習Ⅱ	未定	金	2	
	日本文学演習Ⅲ				

※★印の科目は、原則として卒業論文を提出する4年生が履修することができる。

【上代文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火曜
		【時限】6限
【教員名】谷口雅博	【登録番号】0000	
【テーマ】上代の神話・説話を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>『古事記』(中・下巻)、「風土記」等に記載された神話・説話を対象とし、学生の発表を中心に据えて授業を行う。本文の的確な読みを検討した上で、古代的な論理・信仰・習俗などの背景について考えつつ、新たな読みを模索していく。</p> <p>上代の文献には本文・訓読に問題のある箇所が多く、また解釈も定まっていない話が多い。まずは本文批判を徹底し、その上で各神話・説話の検討を行う必要がある。従って、本文などを確定する一回目と、内容を検討する二回目とに分けて発表を義務付けることになる。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>発表資料・発表内容・質疑応答 50%</p> <p>学年末レポート 50%</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火曜
		【時限】4限
【教員名】上野 誠	【登録番号】0000	
【テーマ】『万葉集』から「古代」を考える		
<p>(演習内容)</p> <p>私たちは、『万葉集』をどう読み、そこからどういう研究をすればよいのか、具体的に考えようと思う。もちろん、基礎からはじめるけれど、ひとりひとりが課題を探して、課題を解決する力を身につけてほしい。そういった学習が卒業論文の作成につながるように指導します。ですから、卒業論文執筆者は、この授業をなるべく聞いてほしいと思います。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>発表内容への取り組み、達成度を中心にして、レポート提出を求めたいと考えている。『万葉集』を読むための基礎知識、問題解決のための技術力、発表のための工夫を評価の対象とします。</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木曜
【教員名】土佐秀里	【登録番号】0000	
【テーマ】万葉びとの生活と感情		
<p>(演習内容) 本演習は、万葉集全巻のすべての歌を対象にして、そこから読み取れる当時の衣食住や労働・生産活動、恋愛・結婚・育児、生老病死のさまざまな局面など、貴族か庶民かを問わず、当時の人々の生活や人生について深く掘り下げて考えようとするものです。また、歌が人間の感情を表すものであることを重視し、そこに表れた喜怒哀楽さまざまな感情についても考察を深めたいと考えています。</p> <p>具体的な研究テーマと対象とする歌については、受講生と相談しながら決めてゆきます。単独発表で、年二回の発表を課します。なお、卒業論文で土佐を指導教員に選ぶ可能性がある人は、この演習を履修してください。</p>		
<p>(評価方法) 発表資料の質、考察の深さ、新たな着眼点、発表の工夫などを総合的に評価し、さらに質疑応答における演習への参加度や貢献も加味して評価します。</p>		

【中古文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】金曜
		【時限】2限
【教員名】山田 利博	【登録番号】0000	
【テーマ】『源氏物語』若紫巻を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>『源氏物語』若紫巻の一節は、ほぼ全ての高校の教科書に採用されているので、読んだことのある人が多いと思う。また内容も、元気な少女が走ってくる印象が強いため、明るい巻とされている人が多いようである。しかしながら巻の後半では、俗に「『源氏物語』一部の大事」とも称される、光源氏と藤壺の密通も描かれているため、実はそう単純なものでもない。本演習では、そうした「高校とはひと味違った大学ならではの」『源氏物語』を味わってほしいし、そうした「読み」をすることが可能となり、その魅力を人に伝えられる人間となってほしい。言わばそれが本演習の「狙い」である。</p> <p>山田研究室で卒論を書こうと思っている者は、履修するのが望ましい。</p> <p>テキストは基本活字本とするが、合わせて当該箇所写本も見ることにより、写本を読む練習もする。</p>		
<p>(評価方法) (前・後期とも)</p> <p>平常点評価／発表(資料、発表内容) 40%、授業中の質問・発言等 20%</p> <p>レポート 40% (自分が発表した箇所をもとにして構わない)</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木曜
		【時限】5限
【教員名】太田 敦子	【登録番号】0000	
【テーマ】『源氏物語』「若菜上」巻を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>『源氏物語』「若菜上」巻を対象として、日本古典文学研究の方法・理解をめざします。「若菜上」巻は、『源氏物語』第二部世界の巻頭を飾り、「藤裏葉」巻で到達した光源氏世界の栄華に新たな問いかけをする巻です。第一部・第三部の理解無しには読み進められないことから、「若菜上」巻の輪読を通じ、『源氏物語』全体の理解を目指していきます。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>出席状況、前期・後期2回の発表および、レポート提出、積極的な授業参加態度を評価の対象とします。</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】土曜
		【時限】6限
【教員名】塚原明弘	【登録番号】0000	
【テーマ】光源氏の政治と王権		
<p>(演習内容)</p> <p>受講者の発表と教員の講評により、『源氏物語』を読み進めていく。1人、年2回程度の発表を課す予定。求める内容は、音読・現代語訳・解釈の問題点・研究鑑賞。自分で感じ、考え、調べたことを出発点にして、作品を深く味わい洞察する力を身につけてほしい。</p> <p>今回の対象は、「薄雲」巻の後半から「朝顔」巻。藤壺の宮の崩御、冷泉帝出生の秘密、春秋優劣論、朝顔の姫君への懸想、女性論、藤壺の宮の夢。そこに、光源氏の政治姿勢や六条院構想が底流する。死生観、政治論、王権論などの問題意識が有効になろう。あくまで本文の表現に立脚しつつ、歴史や民俗に配慮することによって読みを深めて行きたい。</p> <p>ここでの分析や議論によって、受講者の読みを鍛え、問題意識の醸成や独自の視点の確立につなげたい。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>出席・発表・年末のレポートによる。年末のレポートは、発表で扱った内容を発展させてまとめるものとする。</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】金曜
		【時限】6限
【教員名】竹内正彦	【登録番号】0000	
【テーマ】『源氏物語』「葵」巻を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>『源氏物語』「葵」巻を対象として輪読を行う。発表担当者が担当範囲について、諸本の異同、諸注釈、現代語訳、調査・考察といった項目にわたって資料を使いながら発表し、その後、受講者相互の討議を行うことによって、『源氏物語』を読み深めるとともにその研究方法を学んでいく。発表担当はひとりにつき2回を予定。学年末にはレポートを課す。『源氏物語』は、調べれば調べるほど、奥深い世界を見せてくれる。受講生の積極的な取り組みが期待される。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>口頭発表 60%</p> <p>レポート 20%</p> <p>授業への取り組み状況 20%</p>		

【中世文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木曜
		【時限】6限
【教員名】荒木優也	【登録番号】0000	
【テーマ】『新古今和歌集』を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>履修者による『新古今和歌集』を対象とした発表を中心に授業を進めることで、古典和歌の理解、研究方法の獲得をめざす。</p> <p>鎌倉時代初期に成立した『新古今集』は、和歌史において重要な和歌集の一つであり、本歌取りなどの技法により詠み出されるその和歌は、絢爛豪華、優美繊細な様相を呈している。また、本学図書館では『新古今集』の重要な写本を数点所蔵している。</p> <p>履修者は、この『新古今集』の和歌の中から、前期1首、後期1首の計2首を必ず担当し、それぞれ先行研究・注釈書の比較検討、歌語の解釈、考察を行う。そして、学年末にはそれら2首のうち1首についてのレポートを提出することを義務とする。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>発表資料・発表内容・質疑応答（自分の発表以外の質問も含む） 70%</p> <p>学年末レポート 30%</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火曜
		【時限】3限
【教員名】荒木優也	【登録番号】0000	
【テーマ】西行の和歌を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>履修者による西行の和歌を対象とした発表を中心に授業を進めることで、古典和歌の理解、研究方法の獲得をめざす。</p> <p>平安後期に生きた西行は、その死後に編まれた勅撰集『新古今和歌集』に集中最多の94首が撰び入れられるほどに、当時の歌人たちに影響を与えたと考えられる歌僧である。しかし、その言葉(歌語)の使い方には、他の歌人に比べて独特なものが認められる。</p> <p>履修者は、この西行の和歌のなかから、前期1首、後期1首の計2首を必ず担当し、それぞれ先行研究・注釈書の比較検討、歌語の解釈、考察を行う。そして、学年末にはそれら2首のうち1首についてのレポートを提出することを義務とする。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>発表資料・発表内容・質疑応答（自分の発表以外の質問も含む） 70%</p> <p>学年末レポート 30%</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火曜
【教員名】野中哲照	【登録番号】0000	
【テーマ】自分の研究テーマを持ち、調べ、掘り下げ、構造化する。		
<p>(演習内容)</p> <p>中世散文を対象とし、自分でテーマを持ち、それについてとことん調べ、読みこんで深く掘り下げます。そこまではただの自由研究なのですが、それを論文というかたちで構造化してゆきます。</p> <p>この作業を通して、部分と全体、微視と巨視を往復する柔軟な思考力を養い、機能と演繹を反復して緻密な論理構成力を身に付けてゆきます。</p> <p>原則として野中哲照を指導教員とする卒業論文履修者（4年生）を対象とし、野中で卒論を書く予定の3年生も、履修を強く推奨します。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>平常点（出席点、授業時のレポートや研究発表）</p> <p>定期試験は行わない。</p>		

【近世文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】火曜
		【時限】4限
【教員名】中村正明	【登録番号】0000	
【テーマ】黄表紙を読み解く ―江戸の庶民文化と文学―		
<p>(演習内容)</p> <p>黄表紙は、江戸時代中期に始まる草双紙の一時期（安永～文化期）を指す呼称で、滑稽と奇趣、うがちと通人性に満ちた絵入り読み物である。絵が大きく描かれ、その余白に文章が書き込まれるという特異な性質を持った文学ジャンルであり、江戸庶民に広く受け入れられた。そのため、黄表紙には当時の人びとの生活・風俗・文化がいきいきと描き出されている。</p> <p>本演習では、そうした多種多様な江戸の時代層を読解し自ら調査・発表することを第一義とする。また、それだけでなく、近世文学独特の表現を把握・考察することにも重点を置きたい。そのことが黄表紙の理解のみならず、深く江戸時代の文学全体の理解へと繋がることにもなるだろう。</p> <p>黄表紙の代表的な作品数種（『金々先生栄花夢』『無題記』など）を扱う予定。</p> <p>近世文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>演習発表 60%、授業参加（質疑応答） 30%、レポート 10%。</p>		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】木曜
		【時限】6限
【教員名】中村正明	【登録番号】0000	
【テーマ】明治初期文学を読み解く ―仮名垣魯文と新聞小説―		
<p>(演習内容)</p> <p>本演習で扱う明治初期というのは、明治初年代から十年代を指しており、近代文学成立期に当たる。近世文学から近代文学へと移行する端境期に当たるこの時期の文学は、政治の鳴動と社会・文化の変化を直接的に反映するものが多いと言えよう。</p> <p>本演習では、江戸・明治の両時代に跨って活躍した戯作者であり、新時代のジャーナリストである仮名垣魯文の作品を扱う。特に魯文が主幹であった小新聞『かなよみ』の雑報記事をもとに文芸化された『高橋阿伝夜刃譚』(明治十二年刊)を読むことにしたい。本作は、実際の事件として話題となった、毒婦と呼ばれた女性高橋お伝による殺人事件を題材とした実録小説である。そこに見られる明治開化期の人間像や新時代の文化風俗が文学作品としてどう描き出されているか、丹念に拾い出して読解することを主眼としたい。</p> <p>大局的には、こうした明治初期の新時代文学への胎動を、各受講者が自ら捉え考えていくことになるだろう。作品をしっかり読み込んで授業に臨んでほしい。</p> <p>明治初期文学で卒業論文を執筆する学生、執筆しようと考えている学生は、特に本演習を履修するようにして下さい。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>演習発表 60%、授業参加（質疑応答） 30%、レポート 10%。</p>		

【近代文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】月曜 【時限】4限
【教員名】岡崎 直也	【登録番号】0000	
【テーマ】堀 辰雄の文学		
<p>(演習内容) 堀辰雄は、非人称の客観的視点で各作中人物の深層心理を明晰に分析する「聖家族」で主語なし日本語構文の特徴を生かし、固定するはずの視点を〈婉曲表現〉の多用で各作中人物の傍らに寄り添わせつつ経験の切実さを掬い上げた。</p> <p>しかし堀は、叙述による小説の全知的な統御への不信から『美しい村』『風立ちぬ』において、小説を書く行為自体を一人称で小説に書く、いわゆる〈小説の小説〉の試みを繰り返す。主人公〈私〉の生が、同一人物である小説家〈私〉によって表現され、また逆に、その小説家〈私〉の創作行為が同一人物である主人公〈私〉によって生きられる、といった互いを問い直す円環を仕組み、小説家が向き合う現実と、それから創りあげようとする世界との相剋を丹念に追究したのであった。</p> <p>その後、多人物が交渉する〈ロマン〉を書くべく堀は「菜穂子」で非人称の客観的視点を再び採用するが、心理分析を排し、場面ごとに異なる作中人物に寄り添った心理や無意識の描写と、汎神論的な自然描写とによって、叙述の全知的な統御を慎重に避ける。モダニズム文学の推進者であった堀は、一方で古人の生活に学びながら王朝小説を書きつぎ、自然描写と照応する身体感覚によって〈生〉を実感する「曠野」を執筆した。主人公の女の心理は、叙述による断定とそこから幽かに逸れる内心の吐露とのあいだを揺らぐままに提示されている。</p> <p>作品ごとに発表グループを作り、本文批評・注釈・研究史・鑑賞などの整理をもとに順次発表させ、提起された問題点について教員・学生相互の活発な質疑応答を図りたい。</p>		
(評価方法)		
平常点 60% [発表・授業時小レポート・質疑応答]、単位レポート 40%		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ	【開講学年】3・4年	【曜日】金曜 【時限】5限
【教員名】井上 明芳	【登録番号】0000	
【テーマ】横光利一・森敦研究		
<p>(演習内容) 新感覚派の旗手として記憶される横光利一は、新しい表現を追究した作家である。また森敦はその才能を横光に見出された作家である。そこで本演習では、前期に森敦「月山」を取り上げ、生成論的な視点を加えて構造的に徹底した読解を試みる。後期は横光文学の表現を構造的に分析することを目的とする。具体的には「上海」「紋章」「家族会議」「夜の靴」など、中編を中心に扱う。</p> <p>前期は森敦の代表作「月山」のみを扱い、発表してもらおう。後期は横光作品をそれぞれ数回取り上げ、グループ発表してもらおう。発表は先行研究を紹介し、研究史を概括した上で、独自の見解を提示する。その発表内容をめぐって質疑応答を行う。これらを通じて卒業論文制作の方法を身につける。</p>		
(評価方法)		
演習発表(資料内容・口頭発表の内容・姿勢等) 50% リポート(前期25%後期25%) 50%		

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ（★）	【開講学年】3・4年	【曜日】月曜
【教員名】石川則夫	【登録番号】0000	
【テーマ】卒業論文作成に向けての研究発表		
<p>(演習内容)</p> <p>原則として石川則夫を指導教員とする卒業論文履修者（4年生）を対象とする。前期は各自の対象作品における先行研究論文の紹介と批判検討を発表し、夏期休暇中に「先行研究史」を作成し、提出。後期は、本論の途中経過報告を発表してもらう。</p> <p>なお、令和3年度の卒論履修者が27名もいるので、卒論非履修者の受け入れはできない。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>前期発表を踏まえて作成する「先行研究史」。後期の卒論作成、提出を踏まえて後期末に卒論提出後の課題点をレポートとして提出してもらう。当然であるが、本演習の評価と卒論評価は別である。</p>		

【近現代文学】

【科目名】日本文学演習Ⅱ・Ⅲ（★）	【開講学年】3・4年	【曜日】金曜
		【時限】6限
【教員名】井上 明芳	【登録番号】0000	
【テーマ】卒業論文作成のための日本近現代文学研究		
<p>(演習内容)</p> <p>*本演習は、井上に卒業論文を提出者が原則受講する。</p> <p>本演習は、受講者が卒業論文で取り上げる作家とその作品について、精緻に発表することを目的とする。受講者は、各々の作品について、先行研究をしっかりと踏まえ、独自の解釈を論理的に組み立てて発表する。そしてその後の質疑応答を取り入れて、最終的には卒業論文の完成を目指す。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>前期発表30% 先行研究レポート20% 後期発表30% 課題・提出物20% (卒論非履修者も同様)。</p>		

【科目名】日本文学演習	【開講学年】3・4年	【曜日】月曜
		【時限】2限
【教員名】鬼頭七美	【登録番号】0000	
【テーマ】新聞小説を読む		
<p>(演習内容)</p> <p>明治時代のベストセラーとして名高い新聞小説をいくつか取り上げて精読する。尾崎紅葉の『金色夜叉』、徳富蘆花の『不如帰』などが大ヒットしたあとを受けて、我々に馴染みの深い夏目漱石の新聞小説へと至る流れを、作品の内容を読み解きながら確認していく。漱石については『それから』を取り上げる予定である。長編小説を複数の受講者が分割して分担し、それぞれのパートを読解し発表を行ってもらう予定である。</p>		
<p>(評価方法)</p> <p>演習発表、出席、授業中の発言(回数、内容など)、期末レポートなどにより、総合的に判断する。</p>		